

### 高齢ドライバーの運転継続に関する意志と条件の分析

九州大学 大学院 学生員 ○竹之内 篤  
山口大学 正会員 田村 洋一

#### 1. はじめに

現代社会においては高齢者が運転能力の衰えを自覚したとしても運転を断念することは生活維持等の面で困難になりつつある。その結果、高齢ドライバーの増加による交通能率の低下、事故の増大が懸念される。本研究は高齢ドライバーを中心にその交通行動、運転継続意志などに関する調査結果を報告する。

#### 2. 調査概要

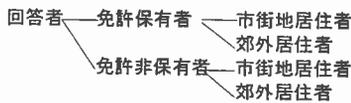
宇部市老人クラブ連合会(会員 8934 人)の運転免許保有者(1325 人)全員を対象とする指名アンケート調査を実施した。その結果、有効回答率 62%(823 人)を得たが、この中には運転免許非保有者の回答が一部含まれており、運転免許保有者の回答率は 47.1%(623 人)であった。このようなことから回答者を属性によって図-1 のように分類しそれぞれの結果を集計した。

#### 3. 調査結果

高齢者の生活行動パターン:日単位、週単位、月単位、年単位の外出場所と用件に対する複数回答結果を整理したものが図2~3である。結果、日単位・週単位の行動パターンに類似傾向があり、医療機関への通院が顕著であった。

目的地と利用手段:回答の集計結果を図4に示す。目的地は近所の商店や医療機関など 11 カ所に限定した。運転免許保有者は自動車への依存度が高く、とくに郊外居住者にその傾向が強いことがわかった。

高齢ドライバーの運転特性:高齢ドライバーの約6割が毎日車を運転していること、また夜間運転を避けるドライバーが多いことが明らかになった。(図5~6)



(a)運転免許保有状況及び居住地による分類



(b)世帯構成による分類



(c)年代による分類

図-1 回答者の分類

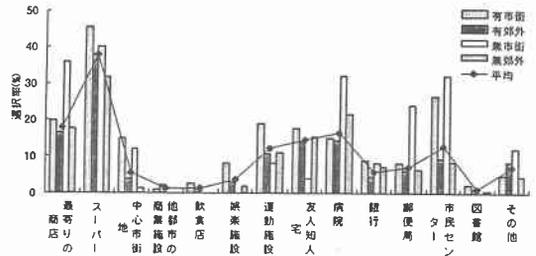


図-2 外出場所(日単位)

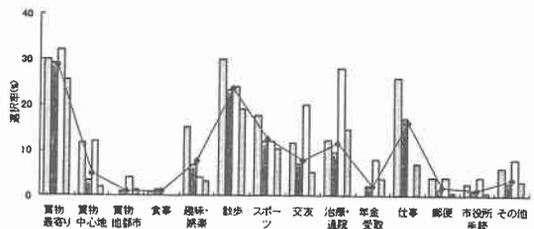


図-3 外出用件(日単位)

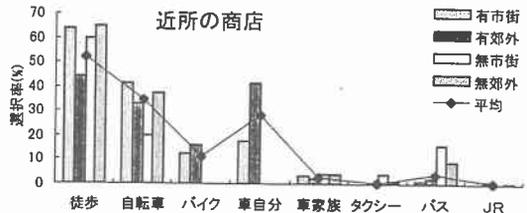


図-4 近所の商店

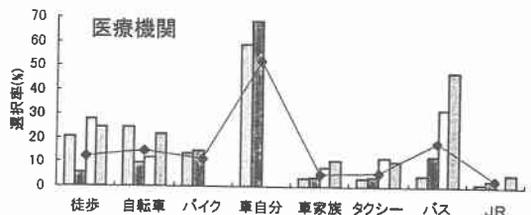


図-4 医療機関

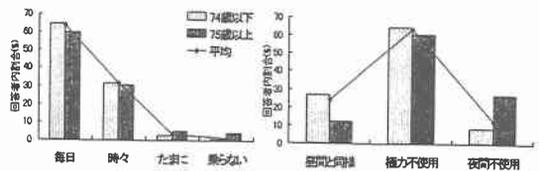


図-5 自動車の運転頻度

図-6 夜間の自動車使用状況

**交通環境の評価**：運転中に危険を感じる理由の順位付け回答で、1位に選択された理由を集計したものが図7である。これより郊外居住者が道路設備や交通施設の未整備について、市街地居住者が周囲の交通事情に強く危険を感じていることがわかる。

**身体能力の低下と交通用具**：各交通用具使用中に不安を感じる理由の順位付け回答を集計したのが図8である。これより他の交通用具と比較して車は高齢者にとって年齢に関わりなく体力的負担の小さい交通用具であるといえる。

**運転継続に関する意識**：車の運転を止めたときの影響については、図9に示すように回答者の約4割が生活にかなり大きな影響が出ると答えている。運転を止めて困る用件については日常生活の基本用件の順位が高い(図10)。運転継続については、回答者の3割弱が運転を止められないとし、16%が危険を感じているが運転を続けたいと回答している(図11)。また、高齢化の進行と共に継続希望年齢は高くなっている(図12)。

**代替交通手段**：バスが重要な代替手段として挙げられているが、一方バス経営は困難化しており問題になるところである。また、自転車が多く選択されているが、運動能力の衰えた高齢者にとって危険な選択傾向といえる(図13)。

4. 結論および今後の課題

今回の調査により高齢ドライバーの交通行動、運転継続について基礎的なデータを得ることができた。これらの成果をさらに高齢者が生活を自己完結できる都市の実現に寄与しうる詳細な調査、分析を展開して行くことが今後の課題である。

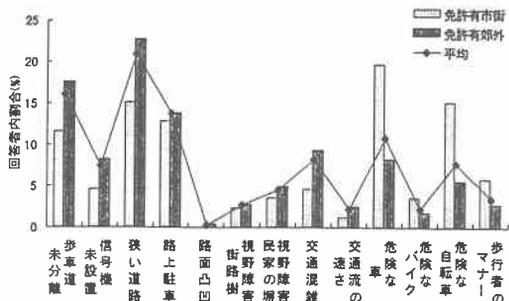


図-7 自動車の運転中に危険を感じる理由

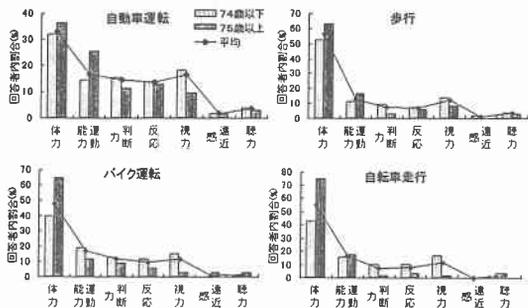


図-8 身体能力の低下と交通用具の関係

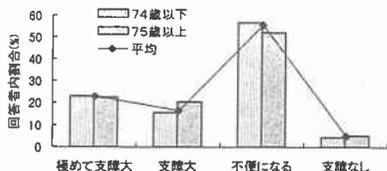


図-9 自動車の運転断念が生活に及ぼす影響

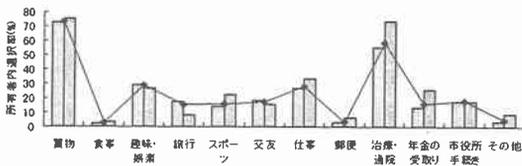


図-10 自動車の運転を止めて困る用事



図-11 今後の自動車運転について

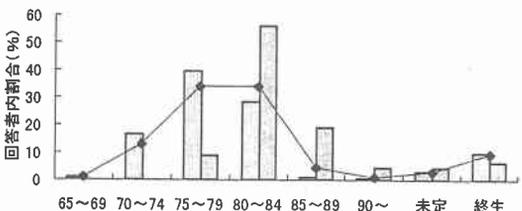


図-12 自動車の運転予定

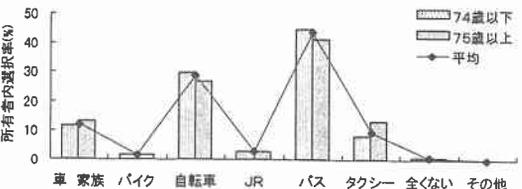


図-13 自動車の運転を止めたときの代替手段